

# RESAS

を分析してみよう

福岡県  
福岡市

## 人口



【出典】  
経務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】  
2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以後は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

2006年に甲府市と富士河口湖町に分割融入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

2025年以後のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村）をまとめて推計しているため表示されない。  
総数には年齢不詳を含む。

\* 人口マップ→人口構成分析→人口推移

## 人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2050年の人口ピラミッドは「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の21.02%から2050年には30.51%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の61.42%から58.48%まで減少する見込みである。

RESAS（地域経済分析システム）は、地域経済に関する様々なデータ（産業の強み、人の流れ、人口動態など）をグラフで分かりやすく「見える化（可視化）」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

<https://resas.go.jp>

RESAS



## 年齢別人口推移

2020年の人口は総人口1,612,392人。10年前（2010年）の1,463,743人と比較すると10.1%増加しているが、2050年にかけてはゆるやかな増加傾向から徐々に減少傾向に転じる見込みである。

また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少、老人人口は増加傾向にあり、老人人口割合が増加する傾向にある。

よって、ゆるやかではあるが少子高齢化が進んでいく地域である。

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15~64歳、老人人口は65歳以上をさす。



【出典】  
経務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】

2025年以後は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

2006年に甲府市と富士河口湖町に分割融入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

2025年以後のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村）をまとめて推計しているため表示されない。  
総数には年齢不詳を含む。

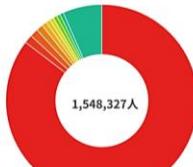
\* 人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

# 人口

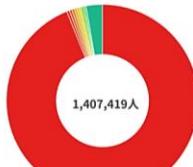
## 昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

2020年 福岡県 福岡市  
総人口 : 1,548,327人  
夜間人口 : 1,407,419人  
(昼夜間人口比率 : 110.0%)

昼間人口  
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



夜間人口  
(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



- 1位 福岡県福岡市 1,321,938人 (85.38%)
- 2位 福岡県福岡市 21,942人 (1.42%)
- 3位 福岡県糸島市 21,273人 (1.37%)
- 4位 福岡県大野城市 17,801人 (1.15%)
- 5位 福岡県糸島郡野町 13,335人 (0.86%)
- 6位 福岡県柳川市 10,776人 (0.70%)
- 7位 福岡県糸島郡志摩町 10,699人 (0.69%)
- 8位 福岡県糸島郡志摩町 9,722人 (0.63%)
- 9位 福岡県糸島市 9,354人 (0.60%)
- 10位 福岡県北九州市 9,285人 (0.60%)
- その他 102人 (0.60%)

- 1位 福岡県福岡市 1,321,938人 (93.93%)
- 2位 福岡県太宰府市 6,521人 (0.46%)
- 3位 福岡県糟屋郡 6,182人 (0.44%)
- 4位 福岡県糸島市 6,010人 (0.43%)
- 5位 福岡県春日市 5,723人 (0.40%)
- 6位 福岡県北九州市 5,345人 (0.38%)
- 7位 福岡県新宮町 5,055人 (0.36%)
- 8位 福岡県吉井町 4,926人 (0.35%)
- 9位 福岡県糸島市 3,743人 (0.27%)
- 10位 福岡県糸島郡志摩町 3,628人 (0.26%)
- その他 38,460人 (2.73%)

【出典】  
経済省「国勢調査」

【注記】

昼間人口：この画面においては、就業者または通学者が就業・通学している従業地・通学地における15歳以上の人口であり、従業地・通学地集計の結果を用いて算出された人口を指す。

算出方法：「地域に常住する人口」-「地域から通勤者又は通学者として流出する人口」+「その地域へ通勤者又は通学者として流入する人口」

テレワーク勤務に関しては、定義上どんかテレワーク勤務が半分未満の場合は勤め先の所在地が従業地となるため、「流出人口」「流入人口」に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とすると、「流出人口」「流入人口」に含まれない。

夜間人口：この画面においては、地域に常住している15歳以上の人口である。

昼夜間人口比率：この画面においては、夜間に人口100人あたり（15歳以上）の昼間人口（15歳以上）の割合であり、100を超えるときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回しているときは流出超過を示している。

「平成22年国勢調査による数値」に関して、平成22年10月1日以降に合併した岩手県一関市（一関市、藤沢町）、栃木県桶木市（桶木市、西方町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、埼ヶ谷市）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び緑豆町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

\* 人口マップ→通勤通学人口分析→地域間流動

## 滞在人口 (2020年)

昼間人口と夜間人口を地域別構成割合で示したグラフである。

福岡市の昼間人口は1,548,327人、夜間人口は1,407,419人である。昼夜間人口比率110.01%と、通勤・通学等での人口流入が多いことがわかる。昼夜共に滞在人口の中で、もっとも多い居住地は福岡市である。

※15歳以上の人口を対象として算出している。

## 流入者数・流出者数の年齢階級別構成割合

2020年 福岡県 福岡市  
通勤者・通学者を見ると  
流入者数 : 227,387人  
流出者数 : 85,922人  
(流入超過数 : 141,465人)

流入者数

流出者数



- 1位 45～49歳 26,661人 (11.72%)
- 2位 15～19歳 24,652人 (10.84%)
- 3位 20～24歳 24,325人 (10.70%)
- 4位 40～44歳 23,656人 (10.40%)
- 5位 50～54歳 22,307人 (9.81%)
- 6位 35～39歳 20,515人 (9.02%)
- 7位 55～59歳 20,008人 (8.80%)
- 8位 60～64歳 16,915人 (7.44%)
- 9位 30～34歳 16,623人 (7.01%)
- 10位 65歳以上 15,941人 (7.01%)
- その他 15,784人 (6.94%)

【出典】  
経済省「国勢調査」

【注記】

通勤者：この画面においては、15歳以上の自宅以外の場所で就業する者をいう。

ただし、どんかテレワーク勤務が半分未満の場合、勤め先の所在地が従業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、通勤者には含まれない。

通勤者・通学者：この画面においては、15歳未満も含む通勤者（自宅以外の場所で就業する者）と15歳未満も含む通学者（主に高等学校や専修学校、各種学校に通学する者）の合計を指す。

ただし、どんかテレワーク勤務が半分未満の場合、勤め先の所在地が従業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、通勤者には含まれない。

この画面において、流入者数、流出者数、流入超過数、流出超過数には、特別区間および同じ政令指定都市下の行政区間の流入者数・流出者数は含まれていません。

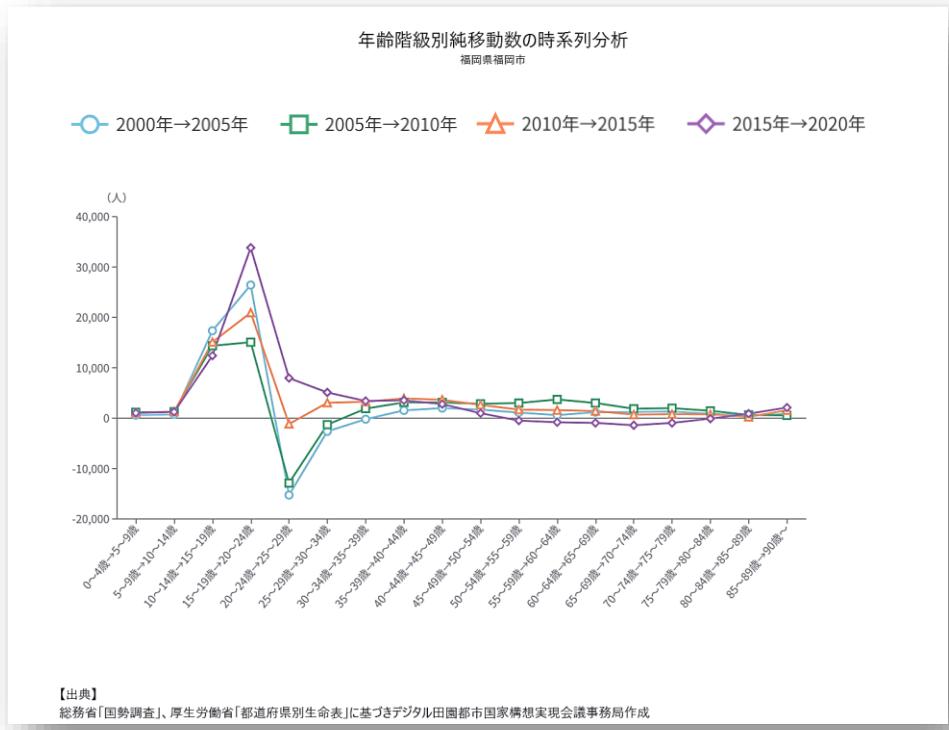
「平成22年国勢調査」による数値に関して、平成22年10月1日以降に合併した岩手県一関市（一関市、藤沢町）、栃木県桶木市（桶木市、西方町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、埼ヶ谷市）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び緑豆町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

\* 人口マップ→通勤通学人口分析→属性別流動

# 人口

## 年齢階級別純移動数時系列分析

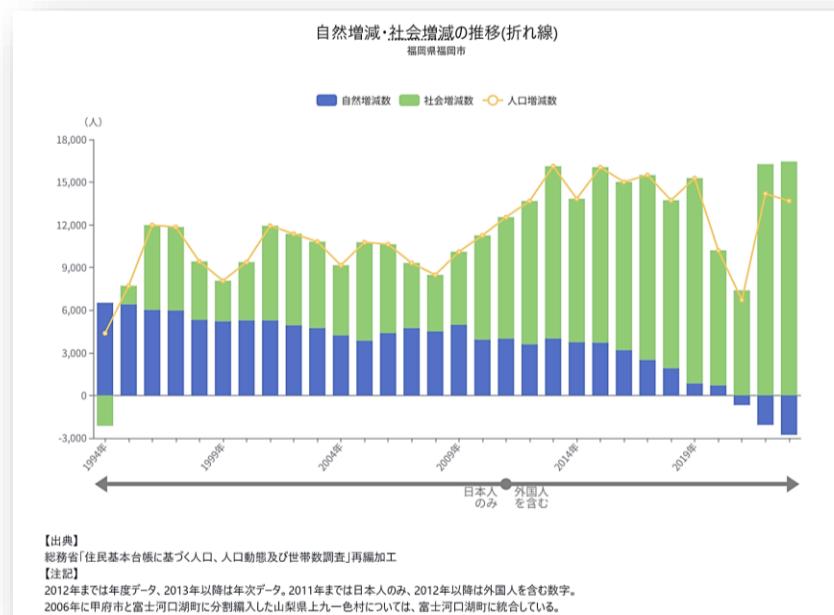
年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時(15~19歳→20~24歳)に人口が流入し、就職時(20~24歳→25~29歳)に人口が流出する。また、中高齢層にかけて移動数が減少傾向にあり、定住傾向が強い地域であると考えられる。



\* 人口マップ→社会増減分析→人口移動

## 自然増減・社会増減の推移

自然増減数(出生数から死亡数を引いた値)と社会増減数(転入者数から転出者数を差し引いた数値)の推移を示したグラフである。2021年以降、自然減の傾向が出てきているが社会増は継続している。



\* 人口マップ→人口増減分析→グラフ

# 産業構造

事業所数(事業所単位):74,867事業所



\*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)

## 事業所数(事業所単位) 大分類 (2021年)

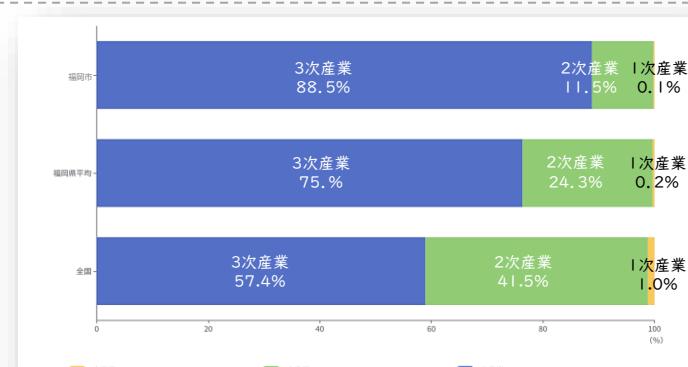
業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業, 小売業」の19,920事業所で、全体の26.6%を占めている。その後「宿泊業, 飲食サービス業」の9,750事業所の13.0%が続く。



\*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従業員数)

## 従業者数 (2021年)

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっと多いのは「卸売業, 小売業」の201,523人で、全体の21.8%を占めている。その後「サービス業(他に分類されないもの)」の121,884人の13.2%が続く。



\*地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構造

福岡市

74,867

(事業所)

68,821

72,284

2012

2016

2021

(年)

\*産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

## 事業所数の推移 (2021年)

事業所数の推移を見る。

2021年は74,867事業所であり、5年前の2016年は72,284事業所だったので、比較すると3.6%増加している。

福岡市

923,521

(人)

828,494

866,930

2012

2016

2021

(年)

\*産業構造マップ→産業構造分析→推移(従業員数)

## 従業者数の推移 (2021年)

従業者数の推移を見る。

2021年は923,521人、5年前の2016年866,930人だったので、比較すると6.5%増加している。また、2012年と比較すると11.5%増加している。

## 地域内産業の構成割合 (2018年)

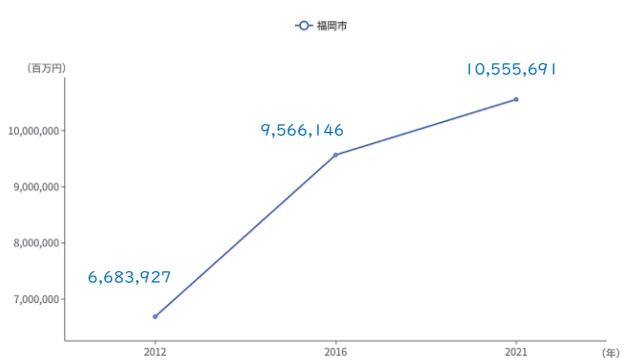
福岡市の生産額を指標に産業の構成割合を全国および福岡県と比較したグラフである。3次産業の割合は、88.5%と全国平均、福岡県平均に比べて高い。一方、2次産業の割合が11.5%であり、全国平均、福岡県平均と比べて低い。

\*1次産業…農業、林業、漁業など

\*2次産業…製造業、建設業、工業など

\*3次産業…商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

# 小売業・卸売業



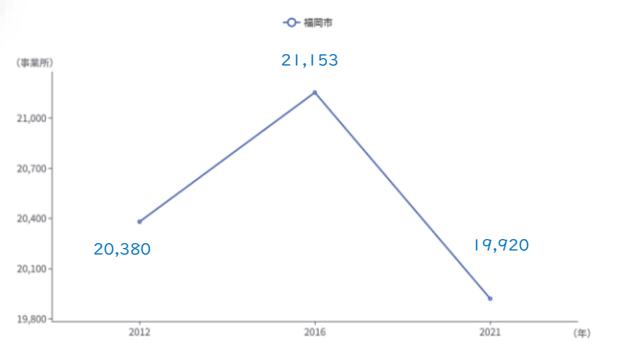
\*産業構造マップ→産業構造→推移

## 売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は10,555,691百万円である。9年前の2012年と比較すると6,683,927百万円なので、57.9%増である。

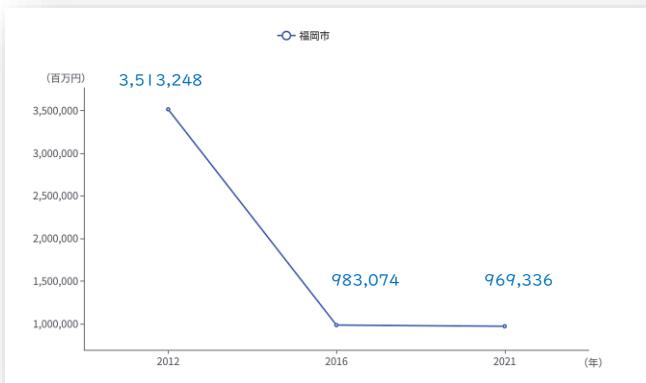
## 事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は19,920事業所、2016年は21,153事業所であり、2016年と比較すると、5.8%減となっている。



\*産業構造マップ→産業構造→推移

# 製造業



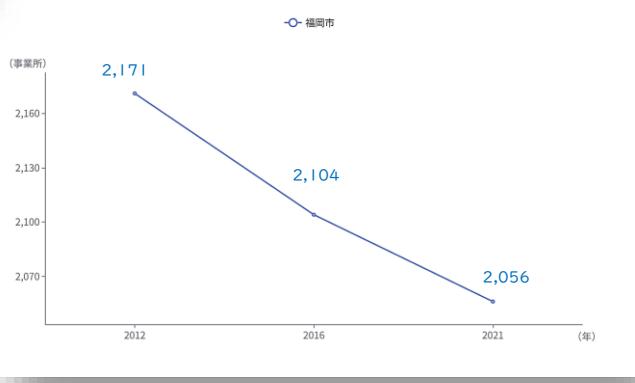
\*産業構造マップ→産業構造→推移

## 売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は969,336百万円である。9年前の2012年と比較すると3,513,248百万円なので、72.4%減である。

## 事業所数(製造業)の推移 (2021年)

製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は2,056事業所、2016年は2,104事業所であり、2016年と比較すると、2.3%減となっている。

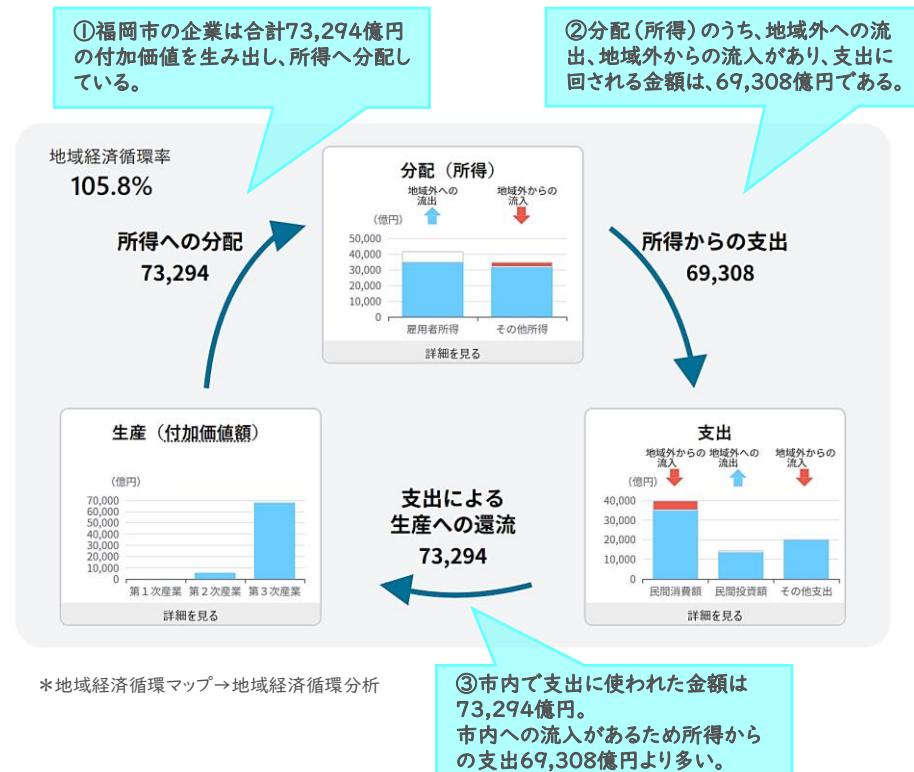


\*産業構造マップ→産業構造→推移

# 地域経済循環

## 地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したもののが地域経済循環図である。



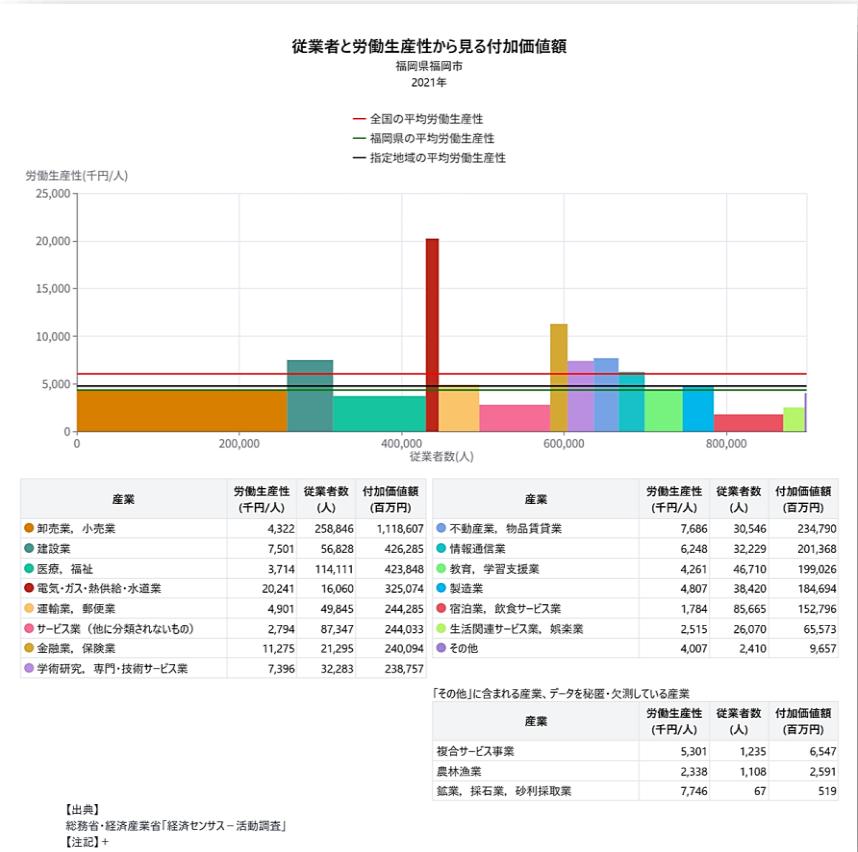
## 付加価値額の構造分析

(付加価値額順/2021年)

X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額(面積)のチャートである。

付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。

福岡市では、「卸売業, 小売業」の付加価値額がもっとも大きく、「建設業」、「医療, 福祉」の順に続く。



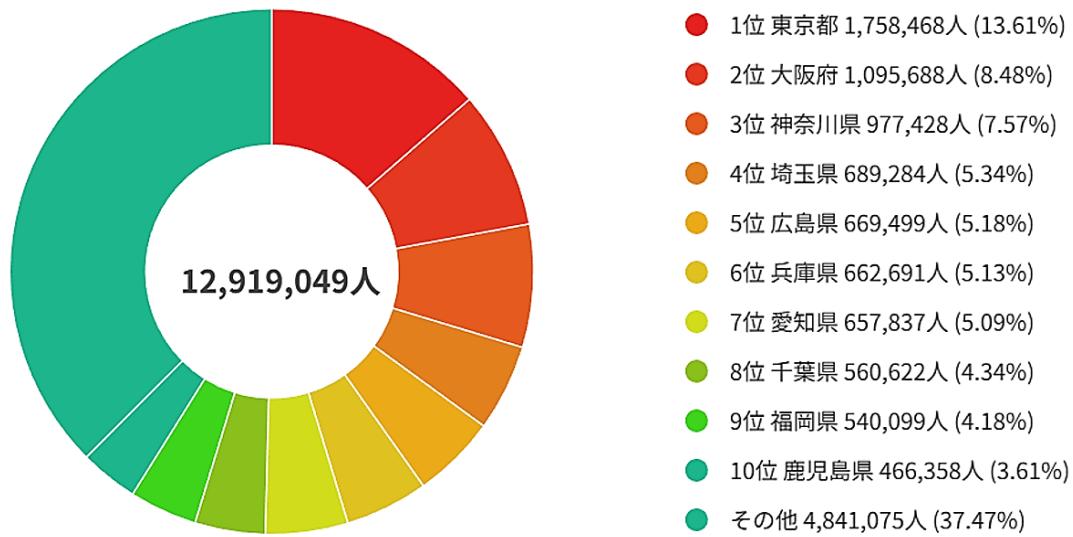
\* 地域産業マップ→産業構造分析→付加価値額の構造分析

# 観光

## 居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合（2024年）

福岡市での居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。

東京都が13.61%ともっとも多く、大阪府の8.48%、神奈川県の7.57%が続く。

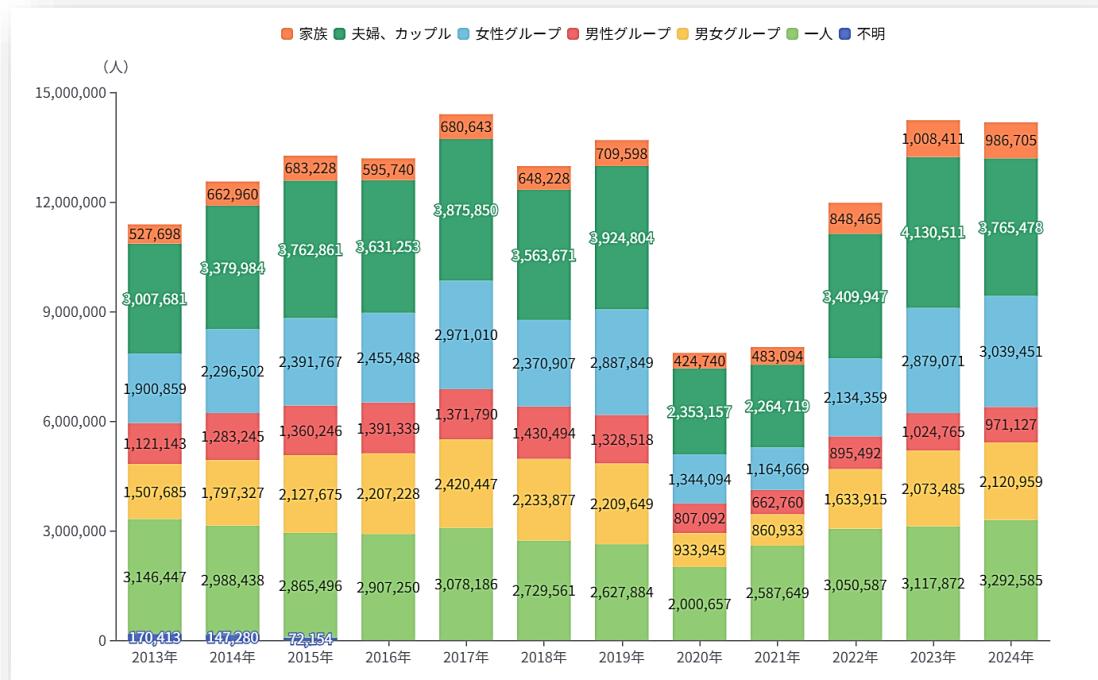


\*観光マップ→宿泊者分析→居住別都道府県別

## 属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

福岡市での延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。

2024年では、もっとも多いのは、「夫婦、カップル」の3,765,478人、その後、「一人」の3,292,585人、「女性グループ」の3,039,451人と続く。



\*観光マップ→宿泊者分析→属性別に見る

# 観光

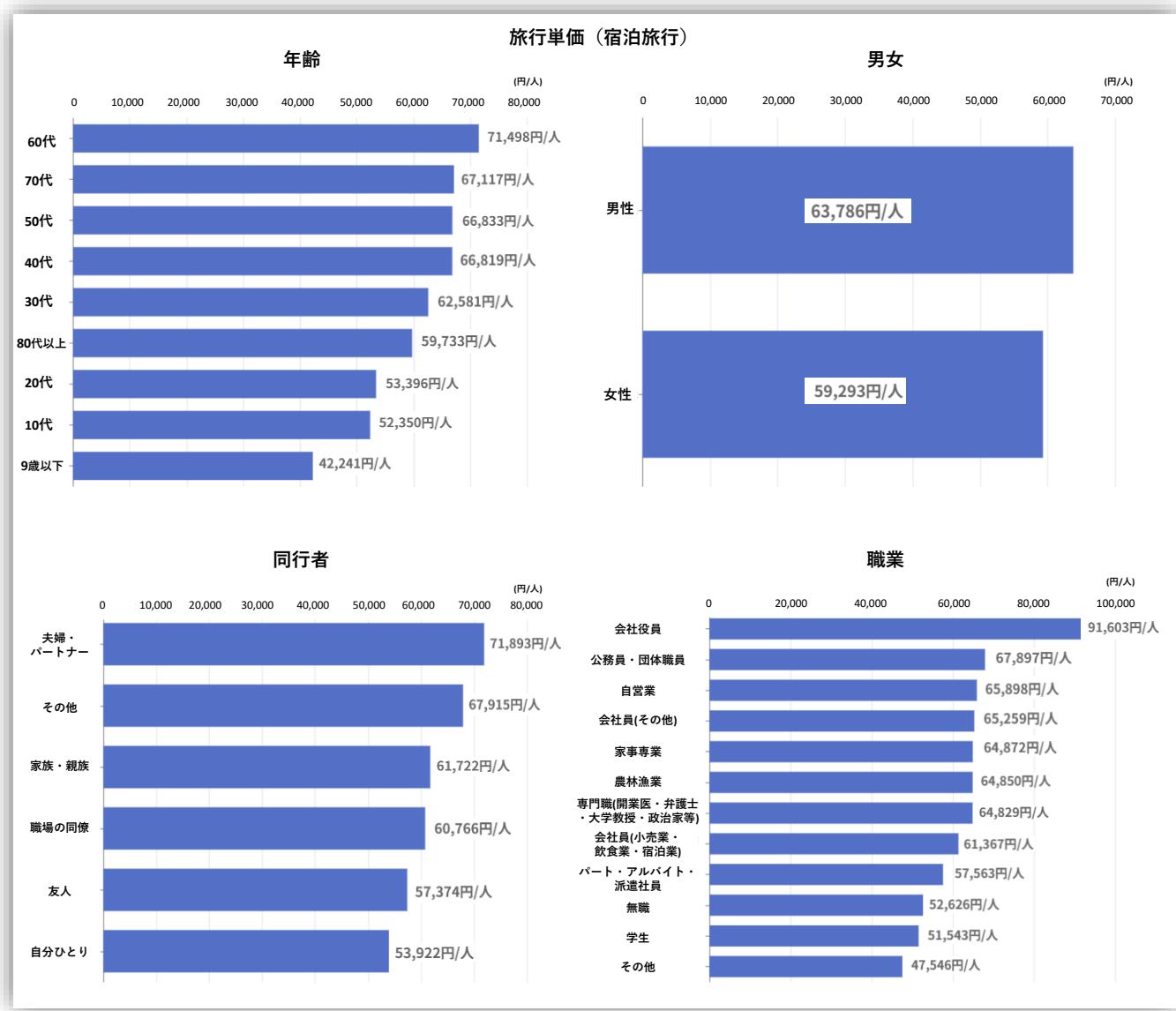
## 国内観光消費分析 (2024年)

日本国内における、2024年すべての期間での、一人一回当たりの旅行単価(国内旅行・旅行中)を示したグラフである。

※旅行単価:旅行1回当たりの支出金額

宿泊旅行と日帰り旅行の旅行単価を比較する。

宿泊旅行は日帰り旅行と比較して、全体的に旅行単価が高い水準にある。年齢別では、両旅行とも60代が最も高いが、宿泊旅行では70代が2位、日帰り旅行では40代が2位となっている。宿泊旅行は高齢層の順位が上位に並び、日帰り旅行は40~50代が上位に位置している。同行者別では、宿泊旅行は「夫婦・パートナー」が最も高く、日帰り旅行は「家族・親族」が最も高い。

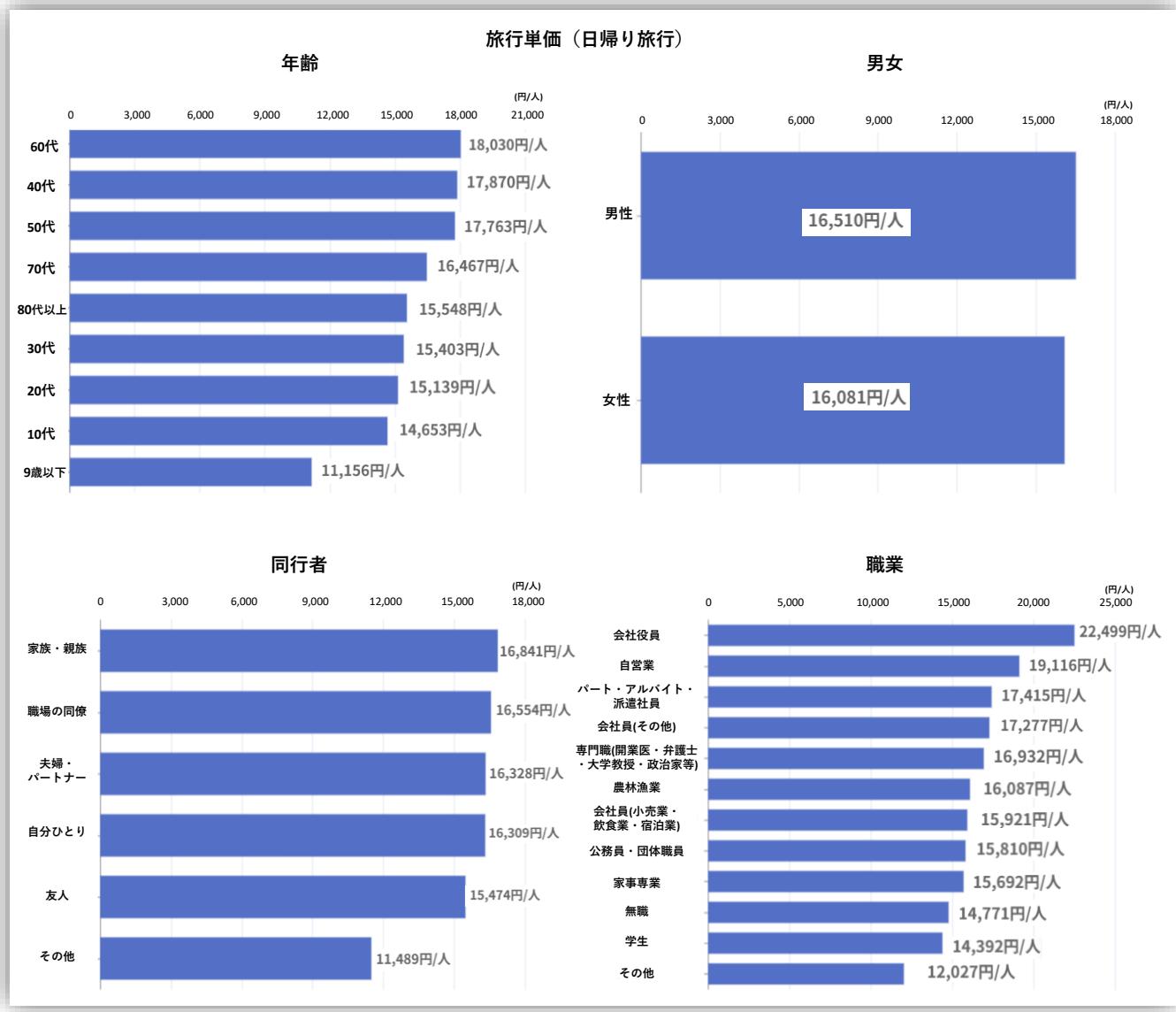


\*観光マップ→国内観光消費分析

# 観光

## 国内観光消費分析 (2024年)

両旅行とも「自分ひとり」は上位ではない。男女別では宿泊・日帰りともに男性が女性を上回っている。職業別では両旅行とも「会社役員」が最も高く、「その他」が最も低い。  
宿泊旅行、日帰り旅行とともに、年齢・同行者・職業により旅行単価の差が確認できる。



\*観光マップ→国内観光消費分析

# 観光

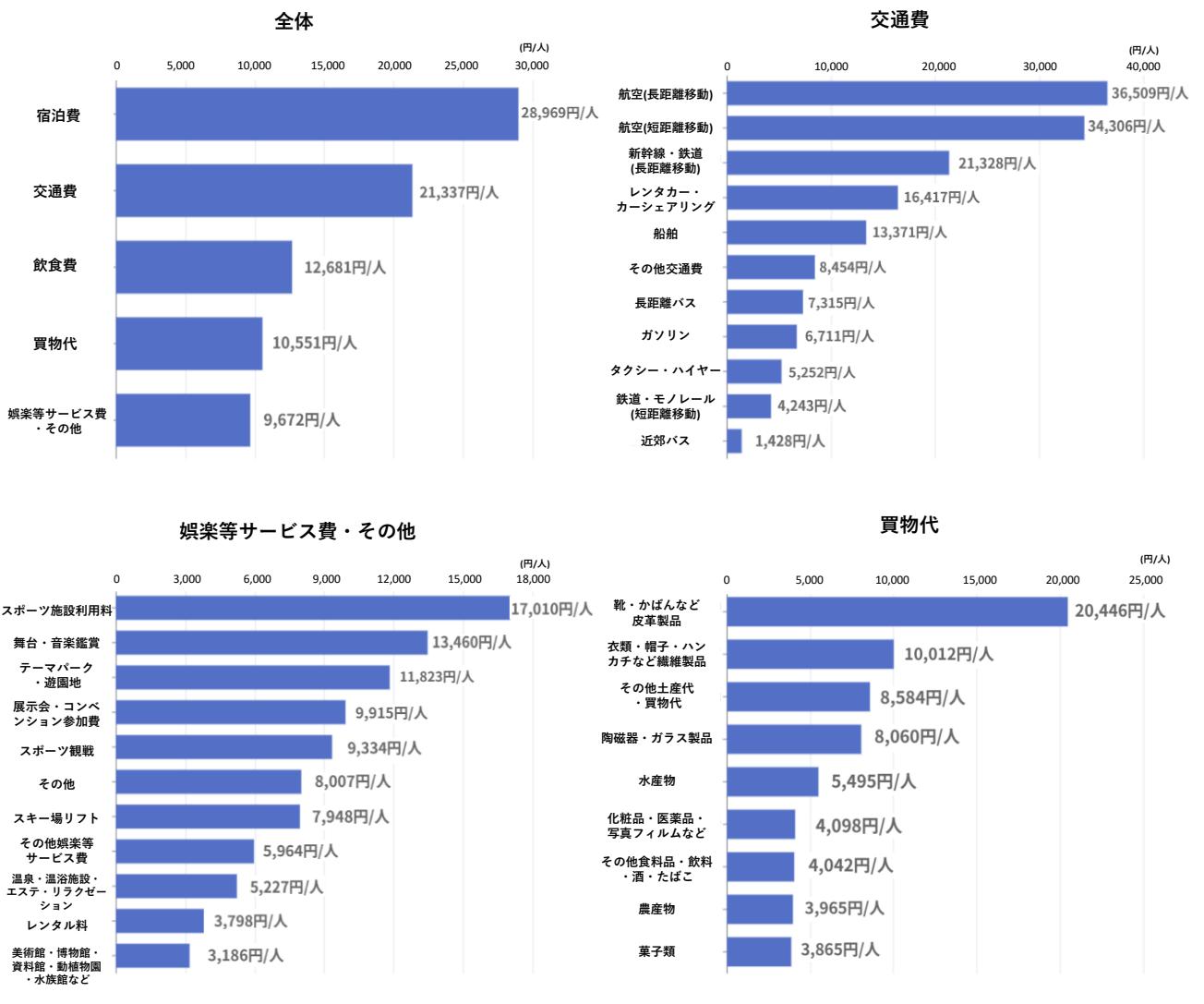
## 国内観光消費分析 (2024年)

日本国内における、2024年すべての期間での、一人一回当たりの購入者単価(国内旅行・旅行中)を示したグラフである。

※購入者単価:ある品目を購入した人を分母として算出される、その品目を購入する際に支払った支出金額の平均値

宿泊旅行の購入者単価を費目別にみると、最も高いのは宿泊費であり、次いで交通費、飲食費、買物代の順となっている。交通費では「航空(長距離移動)」が最も高い。娯楽サービス費では「スポーツ施設利用」や「舞台・音楽鑑賞」が上位にある。買物代では「靴・かばんなど皮革製品」が最も高く、「菓子類」が最も低い。宿泊旅行では費目ごとに支出額の差が大きい。

購入者単価(宿泊旅行)



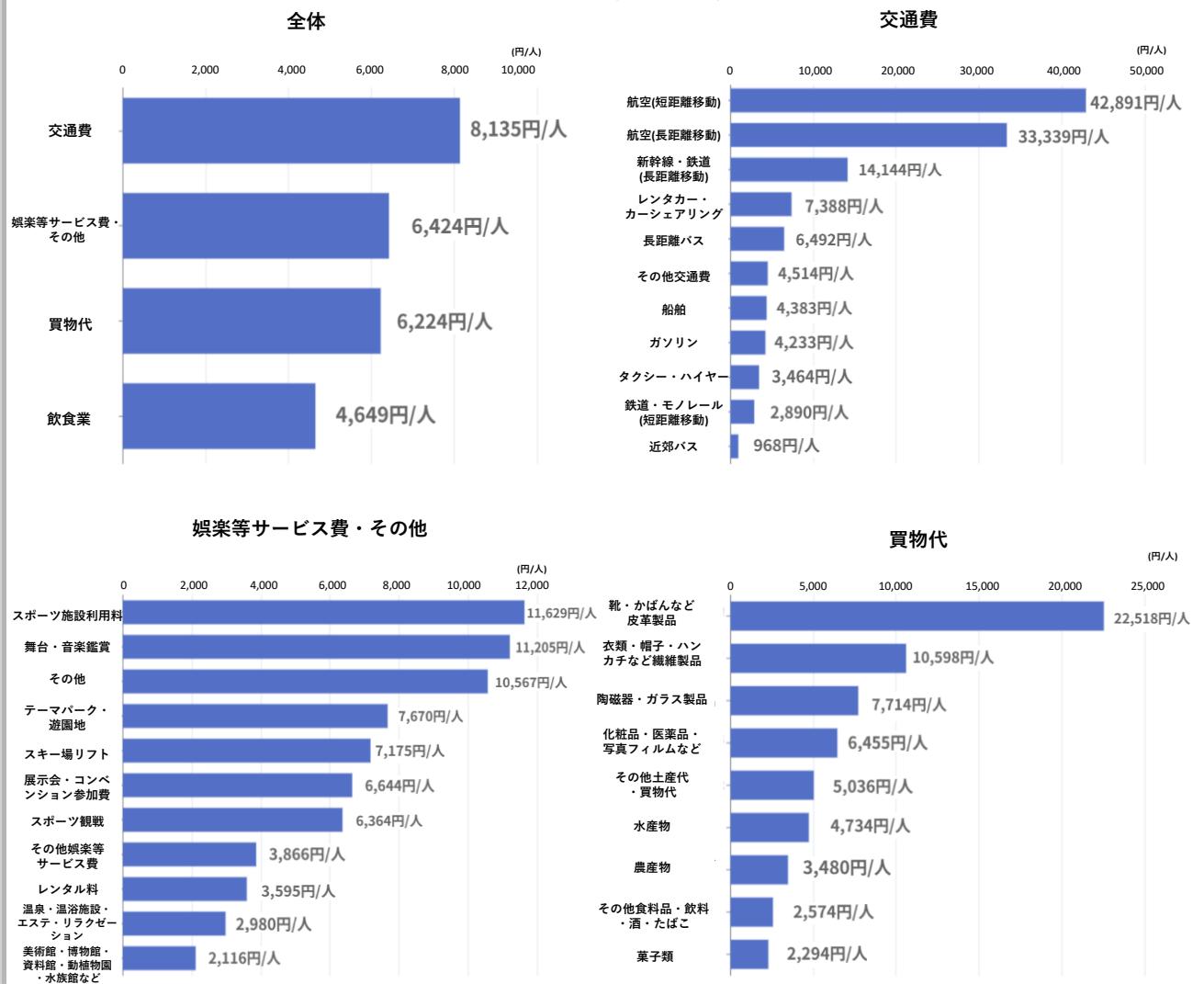
\*観光マップ→国内観光消費分析

# 観光

## 国内観光消費分析 (2024年)

日帰り旅行では「交通費」が最も高く、次いで「娯楽サービス費」「買物代」「飲食費」の順となっている。交通費では「航空(短距離移動)」および「鉄道」が上位である。娯楽サービス費では「スポーツ施設利用」や「舞台・音楽鑑賞」が上位に位置する。買物代では宿泊旅行と同様、「靴・かばんなど皮革製品」が最も高く、「菓子類」が最も低いが、「その他土産代・買い物代」について、宿泊旅行は3位であるのに対し日帰り旅行では5位となっている。また、日帰り旅行では移動関連費用の比重が高い。

購入者単価 (日帰り旅行)



\*観光マップ→国内観光消費分析

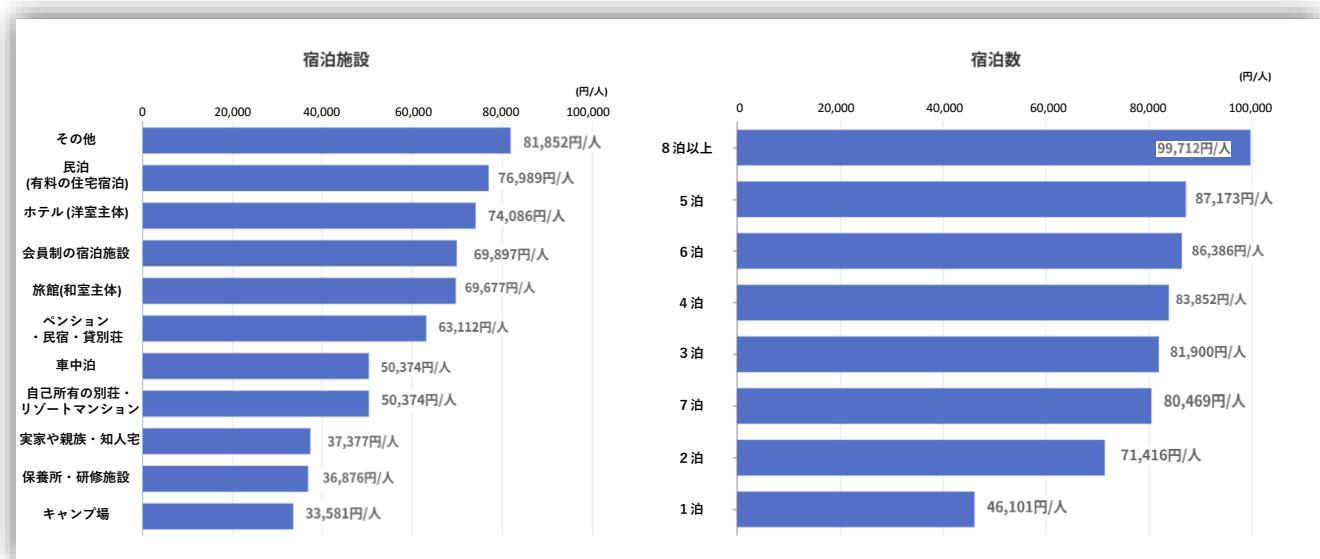
# 観光

## 国内観光消費分析 (2024年)

日本国内における、2024年すべての期間での、一人一回当たりの旅行単価(国内旅行・旅行中)を示したグラフである。

※旅行単価:旅行1回当たりの支出金額

宿泊施設別の旅行単価では「その他」が最も高く、次いで「民泊」「ホテル(洋室主体)」の順となっている。「キャンプ場」が最も低い。宿泊日数別では「8泊以上」が最も高く、「1泊」が最も低い。3泊から7泊では旅行単価に大きな差がみられない。宿泊日数は増加しても必ずしも段階的に旅行単価が上昇していないことがわかる。



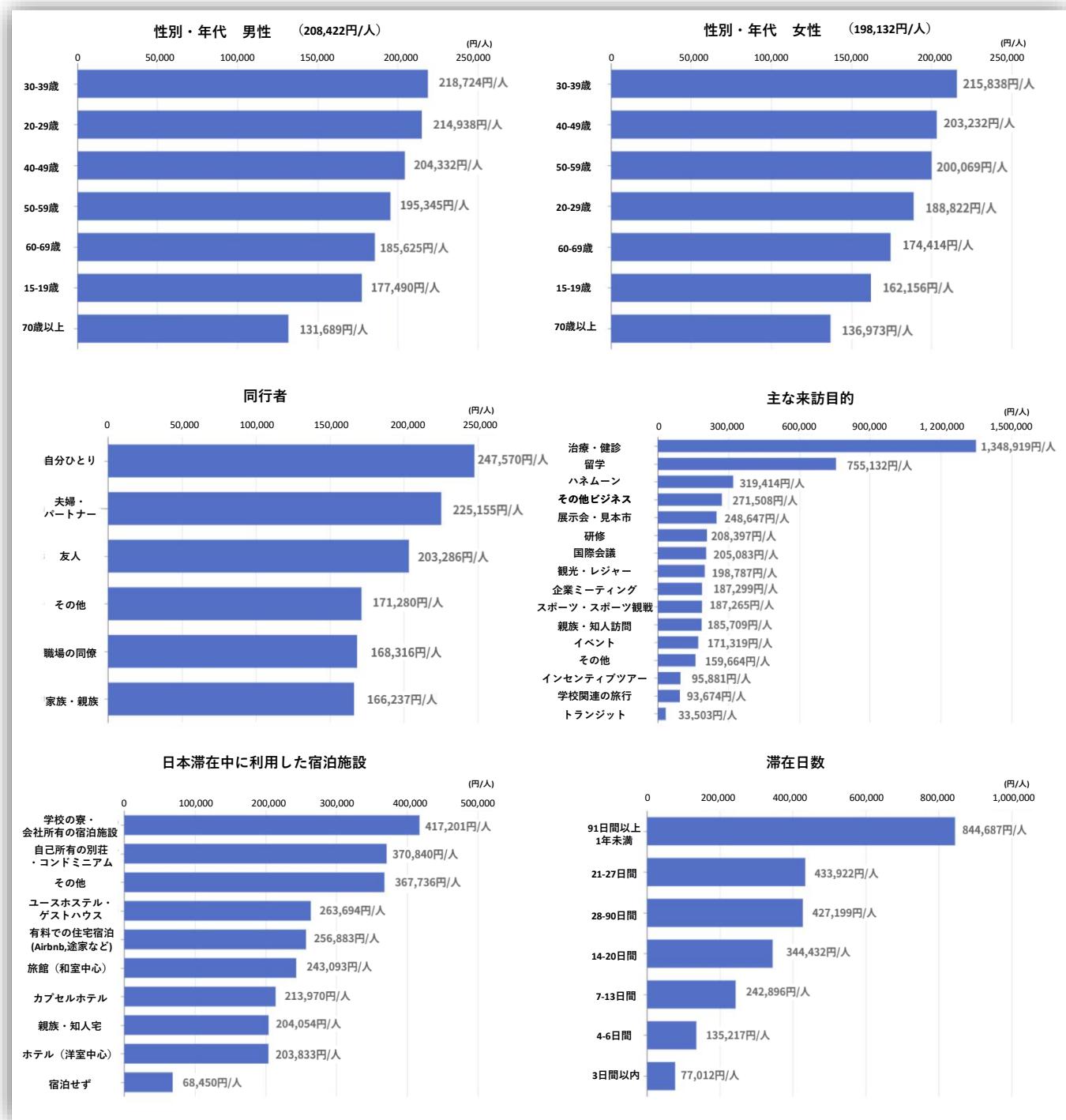
\*観光マップ→国内観光消費分析

# 観光

## インバウンド消費分析 (2024年)

全国籍・地域における、2024年すべての期間での、一人一回当たりの旅行消費単価を示したグラフである。  
※旅行消費単価:一人当たり支出の総称

訪日外国人の旅行消費単価は男性が女性を上回っている。年代別では男女ともに30代が最も高い。同行者別では「自分ひとり」が最も高く、「家族・親族」が最も低い。来訪目的では「治療・健診」が最も高く、「トランジット」が最も低い。滞在日数では「91日以上1年未満」が最も高く、「3日以内」が最も低い。



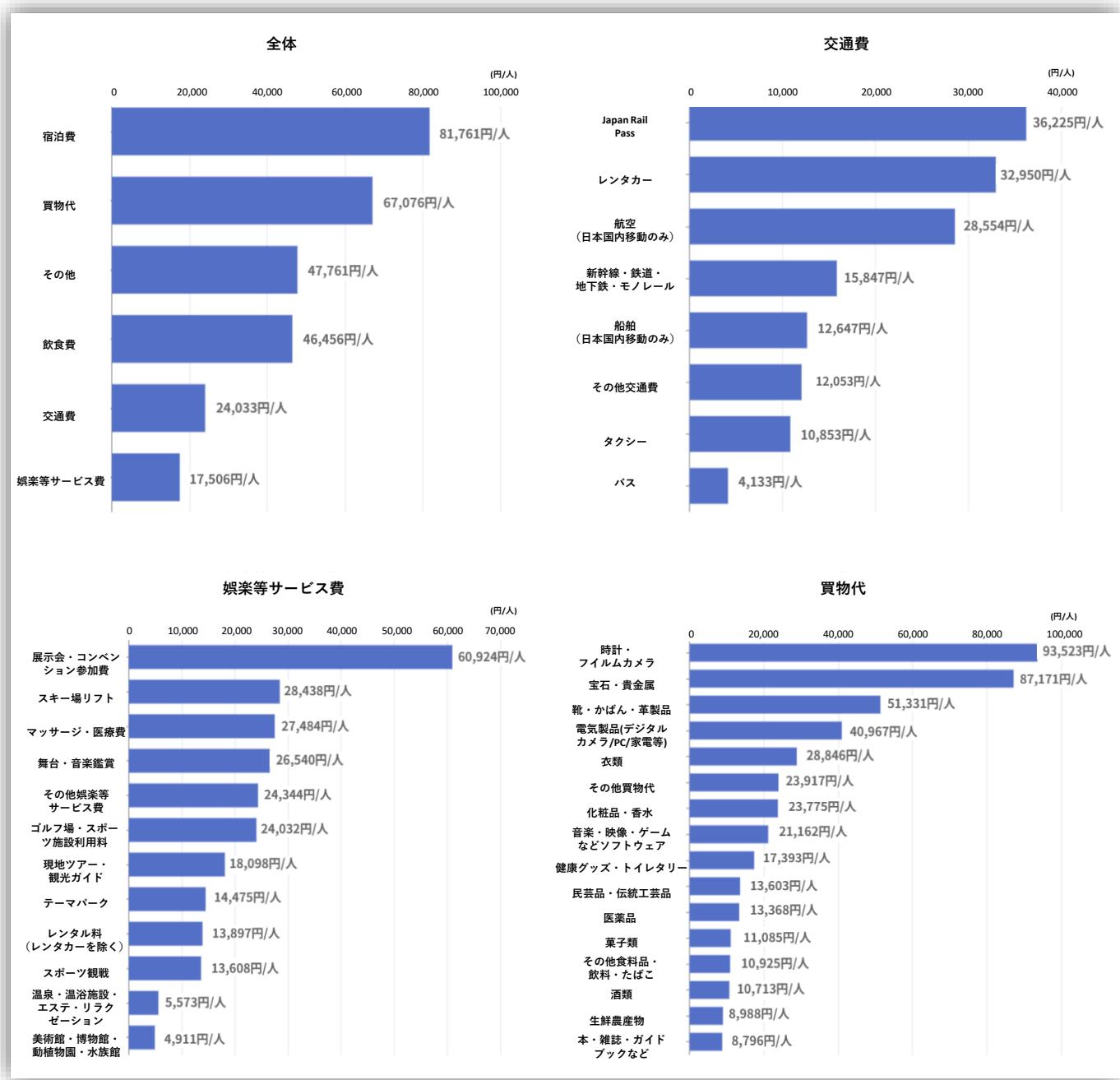
# 観光

## インバウンド消費分析 (2024年)

全国籍・地域における、2024年すべての期間での、費目別の購入者単価を示したグラフである。

※購入者単価:ある商品(又はサービス)を購入した人を分母として算出される、その商品(又はサービス)を購入する際に支払った支出金額の平均値

費目別では「宿泊費」が最も高く、次いで「買物代」「その他」「飲食費」「交通費」の順となっている。交通費では「Japan Rail Pass」が最も高く、「バス」が最も低い。娯楽サービス費では「展示会・コンベンション参加費」が最も高く2位の「スキー場リフト」の2.14倍である。買物代では「時計・フィルムカメラ」が最も高く、「書籍・ガイドブック」が最も低い。



# 観光

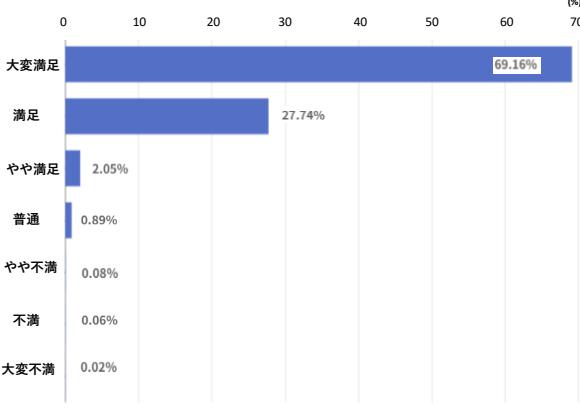
## インバウンド消費分析 (2024年)

全国籍・地域における、2024年すべての期間での、訪日旅行に関する意識を示したグラフである。

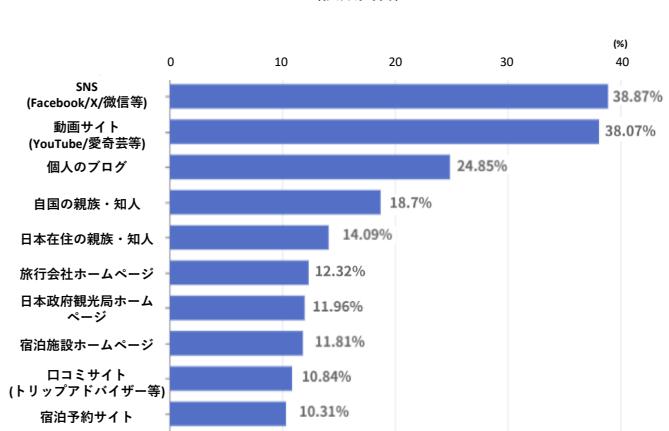
訪日旅行の満足度は「大変満足」が最も多く、約7割を占める。出発前の情報源では「SNS」と「動画サイト」が最も多い。滞在中に役立った情報では「交通手段」が最も多い。訪日前に期待していたことでは「日本食を食べること」が最も高い割合となっている。

滞在中に役立った情報では「飲食店」「観光施設」も高い割合を占める。出発前情報源では「個人ブログ」や「自国の親族・知人」も一定割合を占めている。「無料Wi-Fi」や「ATM」も滞在中の有用情報として挙げられている。

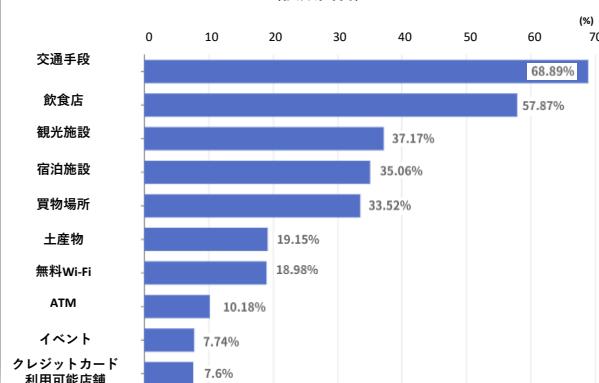
訪日旅行全体の満足度  
(単一回答)



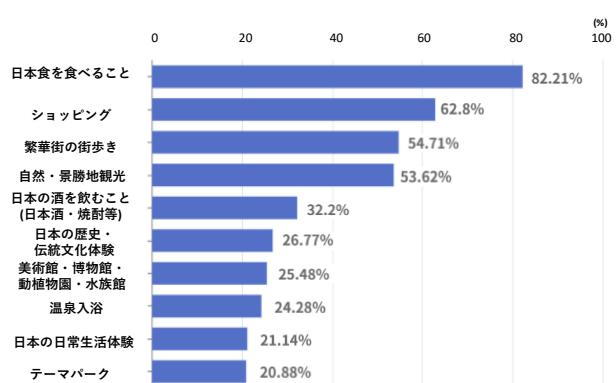
出発前に役に立った旅行情報源  
(複数回答)



日本滞在中に役に立った旅行情報  
(複数回答)



訪問前に期待していたこと  
(複数回答)



\*観光マップ→インバウンド消費分析

# 観光

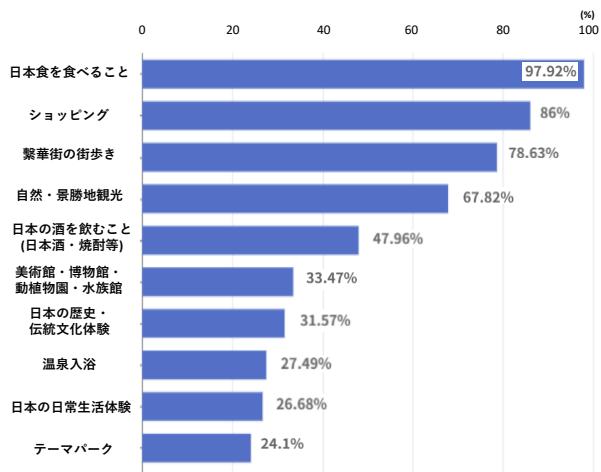
## インバウンド消費分析 (2024年)

今回したことでは「日本食を食べること」が最も高く、約98%となっている。次いで「ショッピング」「繁華街の街歩き」が上位である。次回したいことでも「日本食を食べること」が最も高い。次いで「温泉入浴」「自然・景勝地観光」が上位に位置する。

「温泉入浴」は今回したことでは8位の27.49%であるが、次回したいことでは2位の46.91%と割合が高くなっている。訪日旅行で意識が変化したことがうかがえる。

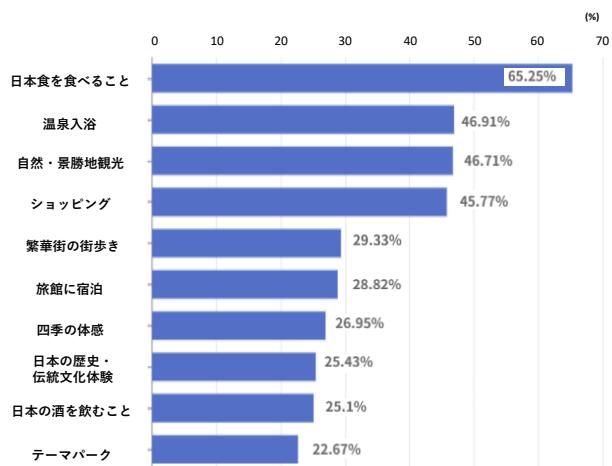
「旅館に宿泊」や「四季の体感」も今回したことの10位以内にはないが、次回希望として一定割合を占めている。

今回したこと  
(複数回答)



\*観光マップ→インバウンド消費分析

次回したいこと  
(複数回答)

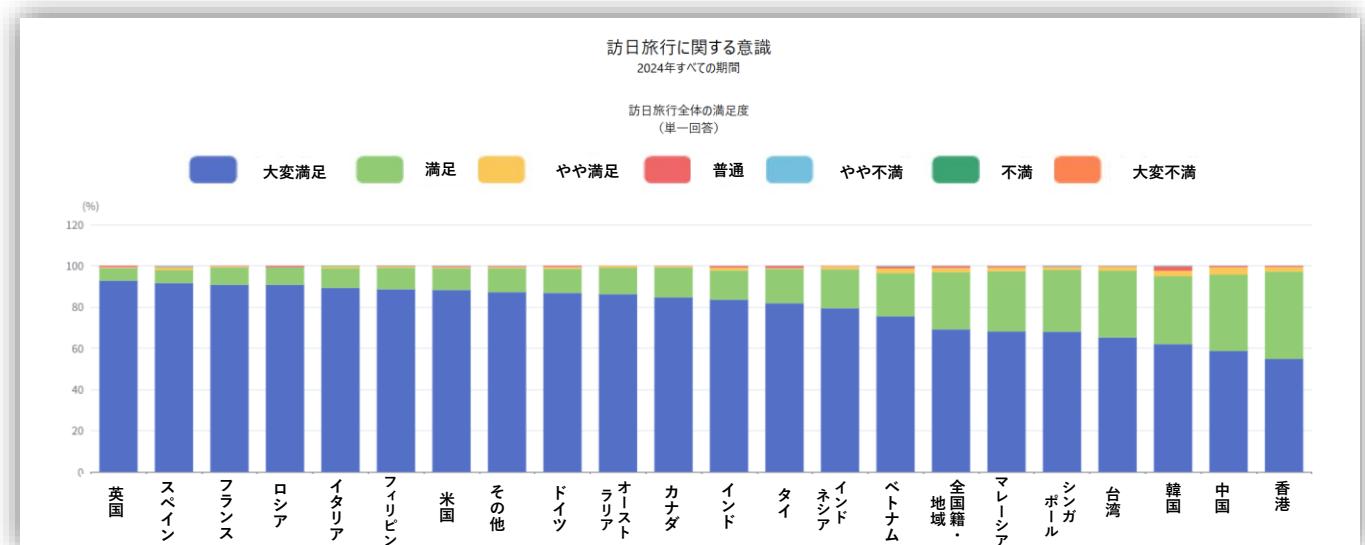


# 観光

## インバウンド消費分析 (2024年)

2024年すべての期間での、訪日旅行全体の満足度(単一回答)を、国ごとに示したグラフである。

国籍別の満足度をみると、すべての国・地域で「大変満足」と「満足」が大半を占める。欧米諸国では「大変満足」の割合が高い。東アジア地域では「満足」の割合が比較的高い。全体として高い満足度が確認でき、「大変不満」「不満」の割合はいずれの国でもごく小さい。すべての国・地域で「やや満足」も一定割合を占める。国・地域により「大変満足」と「満足」の構成比に差がみられる。



英國
● 大変満足 92.79%
● 満足 6.12%
● やや満足 0.39%
● 普通 0.7%
● やや不満 0%
● 不満 0%
● 大変不満 0%

スペイン
● 大変満足 91.62%
● 満足 6.3%
● やや満足 1.37%
● 普通 0.29%
● やや不満 0.42%
● 不満 0%
● 大変不満 0%

フランス
● 大変満足 90.82%
● 満足 8.42%
● やや満足 0.49%
● 普通 0.27%
● やや不満 0%
● 不満 0%
● 大変不満 0%

ロシア
● 大変満足 90.81%
● 満足 8.45%
● やや満足 0%
● 普通 0.73%
● やや不満 0%
● 不満 0%
● 大変不満 0%

イタリア
● 大変満足 89.28%
● 満足 9.43%
● やや満足 1.01%
● 普通 0%
● やや不満 0%
● 不満 0.27%
● 大変不満 0%

フィリピン
● 大変満足 88.61%
● 満足 10.41%
● やや満足 0.61%
● 普通 0%
● やや不満 0%
● 不満 0.13%
● 大変不満 0%

米国
● 大変満足 88.27%
● 満足 10.43%
● やや満足 0.59%
● 普通 0.48%
● やや不満 0.14%
● 不満 0.07%
● 大変不満 0.02%

その他
● 大変満足 87.19%
● 満足 11.51%
● やや満足 0.63%
● 普通 0.43%
● やや不満 0.16%
● 不満 0%
● 大変不満 0.08%

全国籍・地域
● 大変満足 69.16%
● 満足 27.74%
● やや満足 2.05%
● 普通 0.89%
● やや不満 0.08%
● 不満 0.06%
● 大変不満 0.02%

マレーシア
● 大変満足 68.12%
● 満足 29.18%
● やや満足 1.88%
● 普通 0.62%
● やや不満 0.18%
● 不満 0%
● 大変不満 0.02%

シンガポール
● 大変満足 68.03%
● 満足 30%
● やや満足 1.31%
● 普通 0.39%
● やや不満 0.14%
● 不満 0.13%
● 大変不満 0%

台湾
● 大変満足 65.25%
● 満足 32.4%
● やや満足 1.89%
● 普通 0.26%
● やや不満 0.11%
● 不満 0.02%
● 大変不満 0.06%

韓国
● 大変満足 61.98%
● 満足 32.93%
● やや満足 2.67%
● 普通 2.17%
● やや不満 0.11%
● 不満 0.15%
● 大変不満 0%

中国
● 大変満足 58.68%
● 満足 36.99%
● やや満足 3.61%
● 普通 0.65%
● やや不満 0.09%
● 不満 0.15%
● 大変不満 0%

香港
● 大変満足 54.84%
● 満足 42.31%
● やや満足 2.25%
● 普通 0.5%
● やや不満 0%
● 不満 0.07%
● 大変不満 0.04%

\*観光マップ→インバウンド消費分析

発行:福岡商工会議所

〒812-8505 福岡県福岡市博多区博多駅前2-9-28

TEL: 092-441-1110 FAX: 092-474-3200

URL: <https://www.fukunet.or.jp/>

